



金沢脳神経外科病院だより ふれあい

2005年
初夏号

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院 広報誌
第18号
発行所 メディア広報室
石川郡野々市町徳用町315
TEL 076-246-5600
FAX 076-246-3914
URL : <http://www.incl.ne.jp/knouge/>

病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者さまの権利

私達は患者の皆様の権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様の権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、充分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長



佐藤
秀次
病院長

「生活の質」重視の MD手術

腰椎ヘルニアの治療目標は、速やかに痛みを取り除き、快適な日常生活への早期復帰にあります。この目標達成のために、治療者には保存治療か手術治療かの判断が常に求められるのです。私は症状の重症度、生活の障害度、さらにヘルニアの病態に基づいてこれを判断しています。薬物や神経ブロックなどの保存治療は痛みの対症療法であり、根治療法ではありません。対症療法による症状の改善が困難で長引く時には、手術治療に踏み切る決断が必要です。その判断力を欠いた治療は、患者にあたかも「行き先不明の列車」に乗り込んだような不安と不利益をもたらします。果たして「治癒」という目的地に間違いなく向かっているのか、いつ到着であります。今

上した今日、MRI画像所見と症状・経過を総合的に検討するなら、患者個々に採るべき治療の早期決定は必ずしも困難ではありません。現在、手術治療の低侵襲化が進む一方で、安全性はなお一層向上しています。本院のMD法は40~50分で済み、出血量は10cc前後と身体の負担は軽い。術後の痛みは少なく、翌日から歩行でき、1~2週間で退院可能です。通常、通院治療の必要はありません。手術治療に過信は禁物ですが、現在の手術治療の到達レベルがもっと正當に評価され、治療法が患者のために適切に選択されることを望みたいものです。

今回ご紹介する医療機関は、長尾医院です。長尾先生は、まさに患者さんの為に縦横無尽、夜昼ともに奔走されています。今後も引き続き連携を深め、お互いに宜しくお願い致します。

**病院長の月曜日の
外来診察について**

7月4日(月)より、月曜日の病院長の診察は火曜日と同様に、紹介状をお持ちの方及び新来院患者様のみとさせていただきますのでご了承ください。

頭部外傷③

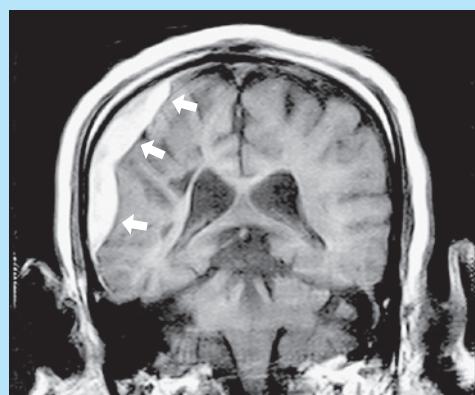
副院長 山本 信孝

硬膜の下に急速に出血が起きると脳が強く圧迫され生命にかかわることも少なくありませんが、ゆっくりと血がにじむように出血してくることがあります。

脳振盪を伴わない程度に軽く頭を打撲してから、あるいはそのような経験がなくとも、だんだん頭痛が強くなる（特に午前中）手で細かい作業が出来ない、歩きにくいなどの症状が出てきたり、会話がとんちんかん、記憶力が急速に悪くなるなどの現象が出てきた場合にはCT、あるいはMRIで検査をする必要があります。硬膜と呼ばれる脳を包んでいる膜と脳の間にゆっくりと血液がたまつてく慢性硬膜下血腫である可能性があるからです。

治療としてはステロイドホルモ

ンにより内科的に治療することが可能な場合がありますが、時間が



左側の白い部分が出血です。

かかる急速に悪化することもあります。一晩かけてゆっくりと血液を流しだすとそれで治ってしまうことがほとんどです。なかには再貯留してきて手術を2回以上しなければならないこともありますが、ほぼ100%治癒します。

進行は比較的ゆっくりしていますが、時に急速に症状が悪化することもありますのでおかしいと思つたらすぐに検査を受けなければなりません。急速に痴呆症状が進んだ場合もこの疾患である可能性があります。

新任医師の紹介

職業人として



脳神経外科医師
(日本脳神経外科学会専門医)
朴 在鎬

医学部卒業間近、子供が筋ジストロフィーと診断され成すすべもなく悲しみにくれる母親からの新聞投書記事に愕然としたことがありました。医師とはどんな存在であり、苦悩する人達を前に果たして何ができるのか？十数年経った今でも問い合わせに完璧に答えられるわけではありません。職業

として、現存する最も高度な知識と技術をもつて診療にあたるのが我々に課せられた使命であり、その実現のために努力を惜しんではなりません。しかし、懸命になる中でこれだけは忘れないでいたいのです。病の痛みと不安の中で苦悩する患者という人達と60億分の1の確率で出会ったかけがえのない友人であり、戦う仲間でありたいというこ

とです。
医師という職業を選んだ一人の人間として、新しく赴任するにあたり改めてそ

信頼が得られる病院に



脳神経外科顧問
(日本脳神経外科学会専門医)
富子 達史

近年特に事故のない安全で、安心して受けることが出来ます。病院になる様力を注ぎたい本院は、急性期から慢性

期にいたる迄の一貫した治療をしており、また病診連携を密に、地域に根ざした医療提供を行っています。脳疾患に加えて、脊椎・脊髄疾患の外科的治療にも積極的に取り組んで成果をあげていますが、今後さらに皆様方の信頼が得られる医療が求められています。病院になる様力を注ぎたいと思っております。



長尾医院
(白山市美川永代町)
院長 長尾 信先生



診療科目



おかえり祭り
(写真提供:美川町在住アマチュア写真家・島田岩次郎氏)

ふれあい看護体験

6病棟 勤務看護師 銭谷洋子
看護師 辻田里美



今回、伏見高校3年生2名がわ
が6病棟に、一日看護体験にやつ
てきました。急性期病棟を体験し
たいという高校生の希望に答えま
した。忙しい病棟なのでどこまで
体験できるか心配しましたが、シ
ーツ交換、検査・手術出しの見学、
点滴見学、入浴介助等内容盛りだ
されっていましたが、平成十三年、
同地で地域医療に情熱を捧げて
おられたお父さまが亡くなられ
たのをきっかけで開業されました。
先生は、普

月に入ると美川旧町内の皆様は異様に活気づいてきます。それは美川の伝統的なお祭り「おかげり祭」があるからです。この町内に今回ご紹介する長尾医院があります。長尾先生は、金沢大学第一外科(現、心肺総合外科)に入局後、いくつかの関連病院で※専門医として診療を

※日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医
日本消化器内視鏡学会認定医
日本気管支学会指導医

五月になると美川旧町内の皆様は異様に活気づいてきます。それは美川の伝統的なお祭り「おかげり祭」があるからです。この町内に今回ご紹介する長尾医

院として、安心できる医療を提供されておられます。



長尾医院外観

ライマー・ケア(疾病の初期治療)を中心には家庭医として診療を行っておられます。また在宅医療にも積極的に取り組まれています。時間外での往診は携乗して病態にあった専門病院まで付き添つて行かれます。また電話で対応され、入院が必要となつた場合には、救急車に同乗して病態にあった専門病院まで付き添つて行かれます。またお父さまの理念を受け継がれ、地域の皆様の家庭医として、安心できる医療を提供されておられます。

登録医療機関 紹介コーナー

治療を行つておられます。また在宅医療にも積極的に取り組まれています。時間外での往診は携乗して病態にあった専門病院まで付き添つて行かれます。また電話で対応され、入院が必要となつた場合には、救急車に同乗して病態にあった専門病院まで付き添つて行かれます。またお父さまの理念を受け継がれ、地域の皆様の家庭医として、安心できる医療を提供されておられます。

新任医師の紹介

回復期リハビリテーション 病棟開設の抱負



リハビリテーション科部長
(リハビリテーション医学会認定臨床医)
河崎 寛孝

あたつてリハビリ病棟の専従医として就職させて頂きました。

『回復期リハビリテーション病

棟』になつて大きく変わつたことは、患者さん1人に対しても毎月1回、関わつてリハビリスタッフ

全員で会議を行い、リハビリの計画書を作成して、患者さん・御家族に説明し、計画書に同意のサインを頂いています。リハビリの目標や退院日もこの計画書で決定しています。

平成12年『回復期リハビリテーション病棟』という制度が誕生しました。この制度によって、回復期の集中的なリハビリが、患者さんのご自宅の近くの病院でも受けられることができるようになります。リハビリテーション医療は大きく前進しました。

金沢脳神経外科病院はリハビリにも熱心に取り組んでいた病院として以前から有名です。私は一年間この病院にリハビリ医として非常勤で勤務し、今回『回復期リハビリテーション病棟』の開設に

くさん体験することが出来ました。将来は看護師?の質問に二人とも首をかしげていましたが、体験終了後の懇談会で「貴重な体験が出来た。看護師の仕事の大変さがわかった。」という言葉が聞かれ、看護の道に進む若者が一人でも多くなることを願っています。

個人情報保護法について

当院は患者様の“個人情報保護”に全力で取り組んでいます。

本年4月1日からの個人情報保護法全面施行に伴い、当院では「個人情報保護方針」をかかげ、患者の皆様が安全にかつ安心して治療を受けていただけるよう個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。患者様の個人情報の利用目的についても、リーフレットを作成し、皆様に配付して同意を求めています。リーフレットに記載された目的以外で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者様から同意をいただくことにしています。また、「個人情報の保護に関する法律」の規定にしたがって行います。



なお、当院では患者様の取り違え事故等を未然に防止するために患者様を番号でお呼びせず、ご姓名でお呼びしています。病室前やお食事に氏名札をお付けするのも患者様の安全のためです。ご了承ください。

夢ふくらむ新入職式



この4月、当院では、脳外科医師2名・リハビリテーション科医師1名・医療相談員1名・放射線技師1名・理学療法士2名・看護師11名・看護助手1名・事務員1名の合計20名もの多くの職員が新しい仲間として加わりました。

それぞれの部署で先輩たちに囲まれて元気いっぱい頑張っています。

編集委員

田野、谷村、中野、山口、寺田

編集後記

今年の春季号は当初予定より随分と遅れての発行となってしまいました。委員の変更や構成の遅れなど原因はいろいろですが、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。次回以降はまた頑張りますので宜しくお願い致します。

“さらなる救急医療のレベルアップのために”



また、検討会に引き続き当院の梅森部長が「神経症状の所見の取り方とそれが意味すること」について講演を行いました。

次回は、9月7日(水)に開催が予定されています。

3月12日(土)に、第一回院内QCサークル発表大会を開催しました。院内には現在15のサークルがあり医療の質の向上や安全性、患者様満足の向上など品質改善を目指して活動を行っていますが、今回、11のサークルからその活動内容や成果を体験談としてまとめた発表が行われました。どのサークルも活発に改善活動が行われており、大変活気に満ちた大会でした。

審査の結果、金賞には、「A DL計算を増やそう!」というテーマで、医療の質並びに患者様の満足の向上に取り組んだリハビリテーション部の“チャンピオンサークル”が選ばされました。また、銀賞には、「病棟のストック薬剤管理を徹底しよう!」の“ドラング・ドランピオンサークル”が、銅賞には、職種横断でチームを編成し、「入院時の身長・体重を測ろう!」の“サルのチエサーサークル”が選ばされました。

QCサークルは、今後も継続的に業務改善活動を展開していく、品質向上に努めてまいりたいと思います。

院内QCサークル発表大会を開催

救急症例検討会開催

当院主催による第8回救急症例検討会を3月2日(水)、

白山石川広域事務組合、能美広域事務組合、金沢市消防本部の救急救命士や救急隊員19名の参加をいただき開催しました。この検討会では、過去3ヶ月間に当院に救急搬送された182件

の中から、特に救急医療のレベルアップにつながると思われる3症例を取りあげ、救急処置などについて熱心な討議が行われました。

また、検討会に引き続き当院の梅森部長が「神経症状の所見の取り方とそれが意味すること」について講演を行いました。